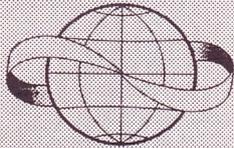


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第25号
(平成15年新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
Tel&Fax 042-395-9788

新年あけまして

おめでとうございます。

東村山市ごみ有料化三ヶ月

同市がごみ処理の有料化に踏み切ったのは、昨年十月一日からで、可燃・不燃ごみを有料の指定袋に入れて、各戸の玄関先に排出する戸別収集方式だ。但し、古紙・古繊維・びん・缶・ペットボトルなどの資源物は、従来通りステーション回収のままで実施した。

有料化の方法は、指定袋の購入方式で、家庭系袋がごみ処理総コストの二〇％分を負担する形で設定され、事業系は全額負担を原則として袋の色も変えている。

対前年比で見ると、一〇月はごみが一六・九％減、資源物で一・五％増だった。同じく一月は一九・一％減と一六・四％増。そして二月は一五・〇％減に三・三％増、と三ヶ月間の実績を見る限りでは所期目的は達成された。資源量の伸びが少ないようだが、古紙と古繊維は一〇月二一・二％、一月二六・二％、二月四・一％と増加している。しかしびん類は減少し、その分ペットボトルや缶が増えたものの重量比では一〇％ほど減っている。これは有料化とは関係なく、他市でも現れている。

青梅市や日野市と違って、資源物は戸別回収方式を取っていないので、微妙な問題も出ている。その一つは、新聞古紙など比較的価格の良い物が、回収時間前に無断先取りされてしまうことだ。ステーション回収の場合、資源物の所有権が不明確となり先取り業者の取り締まりは困難となる。その点戸別回収は、所有権が明白で無断先取りされた場合、立派な窃盗罪になるから被害は少ない。

次に、古紙の分別状態や排出形体がかなり低下した。まずポリ袋など古紙以外のごみ類がよく挿み込まれている。金銀紙やラミネート紙などの複合材の禁忌品も以前より多い。ボール紙と段ボールと一緒に束ねたり、新聞古紙に雑古紙類を挟んで出されることも回収後の選分加工作業で大変苦勞する。雑誌古紙の中にティッシュペーパーや贈答品などのボール箱・包装紙・封書・トイレットペーパーやラップの芯そして各種書類など雑紙類が大量に混入してきた。古紙回収の一段の促進として評価できるが、紙袋にしっかりとめるなど出し方を工夫してほしい。

古繊維の中にも、ぬいぐるみや枕などのごみとして排出すべきものの混入が増えてきたようだがイ

エローカードを出す相手が不明だ。これら資源にならない物が回収業者の手に渡ると産業廃棄物としてkg当り五〇〜八〇円で処理しなければならぬからつらい。回収方法にも原因があると思うが、分別や排出方法に一層のPRと市民各位のご協力を望みたい。

それにしても贈答品や酒類・薬などの包装に金銀紙が多い。しかし、これが製紙原料に混入した時の影響はどれほどあるのだろうか。

(財)古紙再生促進センターの古紙分別基準によると、一品目の中に混入が許される禁忌品の量は、〇・三％以内とされている。だが製紙会社の検収では、一枚の銀紙混入で返品されたこともあった。

リサイクルの世紀でありながら、なぜ再利用困難物を作り使うのか、古紙を主食として使う企業がわずかな禁忌品混入のリスクを克服せず回収業者にのみ負わせるのか。法律で縛られなければ実行できない企業、法律をクリヤすれば十分と思っている社会に、リサイクルの真のモラルを教えることのできる唯一の方法は、消費者の正しい意識による運動と実行以外にはないように思う。

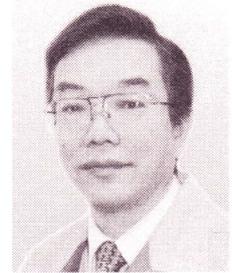
(T・K)

直言拝聴

「その他プラスチック容器回収の本格稼動に際して」

小平市環境部リサイクル推進課 課長

藤原 哲重



私のごみ処理事業に携わり始めたのは昭和五九年、当時の組織は清掃課で、ごみの収集は、今で言う資源物収集の制度がなく可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの三分別でした。

時々、収集現場に応援に行くことがありましたが、ごみの中には資源や使える物が沢山あり宝の山でした。

これら貴重な資源が、ごみとして焼却や破砕され処分されていることに疑問を持ち、平成元年に、小平でも資源物の分別収集をしようと、今の東多摩再資源化事業協同組合理事長の紺野氏に相談しました。

最初は、一担当職員が来たことで、小平市が本気でやる気があるのか心配そうでしたが、紺野さんの理解を得る中、モデル地区を設定し、なんとかその年の一二月に資源の回収を始めることができました。

その後、市民の皆様のご支援と再資源化事業協同組合、収集現場の職員のご協力によりまして、現在の小平市の体制が整備されました。

この間、多摩地域はもろろん全国で、資源の分別収集が定着し、様々な法律も整備され、国を上げ

て廃棄物・環境問題の取り組みがされています。

しかし、廃棄物問題は、常に変化しており、これで終わりということはありません。

小平市では、ビン類・カン類・ペットボトル・容器包装プラスチック（硬質限定）・金属類・アルミ製の鍋ややかん類・白色トレイ・新聞・雑誌・雑紙・段ボール・古布・綿・牛乳パック等を分別し、資源化を図っています。

また、平成一四年度からは電動の生ごみ処理機から排出される一次処理物のモデル収集、剪定枝の収集資源化も行っています。

このような状況の中で、市民も環境問題に対して関心が高くなり、様々な取り組みを行うようになってきました。

廃棄物の問題では、市民自らごみになるものを買わない、廃棄のことを意識して生活の工夫をするようになってきているのではないかと思います。

しかし、家庭や事業所から排出されるごみ・資源は、分別収集によって、ごみとしての処分されるものと資源として再生利用されるものに分かれていきますが、排出量そのものが大幅に減っているとはいえないのが実情です。

とかくすると、資源として再生利用ができるから、買っても良い、捨てても良いという考えの方も多くなっていると思います。

しかし、資源であっても、再生して利用するには多くの経費と労力を要し、また、環境にも一定の負荷を生じさせていることを認識している方は少ないのではないのでしょうか。

人の行動には、見える行動と見えない行動に分けられますが、例えばペットボトルは、資源として分別するという私たちに見える行動と、そのペットボトルが、多くの労力によって再生されているという私たちに見えない行動に分かれます。

私たちはこの見えない行動をあらためて見つめ直すことが大切なことだと思えます。

資源の分別収集は、大切なことではあります。万能ではなく問題点も多くなかかえていることを知っていただき、資源物であっても、不要な物は買わない、捨てない等の廃棄物の発生を抑制する生活スタイルに変えていただきたいという事です。

「お買い物は、マイバックで！」
さて容器包装プラスチックの収

集、資源化についてですが、小平市は、平成一二年度からモデル地区を設定しシャンプーや洗剤などの硬質ボトル系の容器包装を限定して回収し、資源化の検証を行いました。

この結果、市民から排出される硬質のボトル類は量的に少ないこと、市民もきちんと洗浄し分別がされていることから、平成14年度からは全市で、対象の容器包装の種類を拡大しての収集・資源化を行っています。

しかし、リサイクルセンターでの資源選別等の処理能力の限界から、対象品目を限定して収集・資源化を行わざるを得ないことは、リサイクルに関する物にとっては誠に残念であり私の大きな課題でございます。

今後、ごみの減量と資源化をより拡充するためには、容器包装プラスチックの全量を収集し資源化を行う必要があります。

この為には選別・保管施設の確保が最大の課題になります。

現在、市で施設の拡充を行うか民間の事業者にも協力をお願いするか等について様々な検討をしているところです。

行政が容器包装プラスチックの全量の資源化を図るためには、選

別・保管施設の確保、建設のための広い土地の確保、建設に対しての近隣住民のご理解、ごみ処理施設としての環境規制等様々な解決していかなければならない事項があります。

また、施設の建設には莫大な経費と複雑な手続きも必要となります。

このように市が抱えている痛みは、プラスチックを生産・販売するメーカーには理解されています。

これは、法律の枠組みが、メーカーの役割は、指定場所から容器包装プラスチックを引き取り資源化を行うこと、それに伴うコストを負担すること、市町村の役割は、容器包装プラスチックを市民から収集し選別、加工、保管をすることとしていきます。

要するに法律が変わらない限り、市民、行政の負担はリサイクルすればするほど多くなってしまう仕組みになっています。

このようなことを考えると、行政が市民の税金を使って莫大な経費を投入し、資源物を収集、選別、保管、資源化を行うことが市の財政事情を圧迫することになってしまいます。

生産者や販売者は、天然資源の

使用量を減らし、再生資源を積極的に利用すること、廃棄物になりにくい製品の開発販売すること、分別しやすい製品とすること、また廃棄物となった場合には、回収・選別にかかる経費も含めすべて事業者が負担する等の制度を確立していただきたいものです。

現在、企業も努力をしているといいますが、どちらかというと、ペットボトルに見られるように、年々生産量を増加させているのが現状です。

リサイクルという免罪符をもつて、「プラ」「紙」等の識別マークをつければすべてが解決されるかのように見えるといった意見もつとめだと思えます。

しかし、プラスチック容器包装は、ペットボトル以上に多くの問題を抱えています。

それは、商品の素材や品質が異なること、複合素材が使用されていること、商品によって中身が異なり、混ぜると危険なものがあること等様々な問題がある中で、法律は、その他容器包装類の枠組みを「その他プラスチック製容器包装」「その他紙製容器包装」の二つにくくり、それぞれを一括に収集し、まとめて資源化するというこ

その他の容器包装プラスチックをひとくりにしたことは、様々な問題を抱えることになっているのではないのでしょうか。

行政が莫大な経費をかけ選別した資源を、メーカーは再生、資源化をしています。再生された品物は、バージン資源から作られたものに比べ品質が悪く再生品利用の範囲も少ないのが現状とされます。

このことは、再生品の消費が進まないばかりか、使われたとしても直ぐに廃棄物となることにつながるものと思われれます。

このようなことから、私たち市民が行動することは、資源を分別し排出することは当たり前ですが、これからは、資源としての利用が可能なものであっても、不要な物は買わない、家に持ちこまないことを徹底することが大切ではないでしょうか。



リサイクルセンターに集められたその他プラスチック容器

新年の挨拶



理事長 紺野武郎

新年おめでとうございます。

当組合も、本年七月に十周年を迎える運びとなりました。

これも関係各市をはじめ各界の多くの方々そして市民の皆様のご支援ご指導のお陰と感謝申し上げます。その間リサイクル推進の機運が高まり、各種リサイクル法も施行されて、循環型社会の実現に向けて大きく動き出しました。

我々も長年培ってきた経験や流通ネットワークそしてノーハウをフルに發揮してきましたが、今後とも民間で運営可能なシステムの拡充に邁進しなければと心新たにしたところであります。

本年も組合員及び賛助会員そして組合事業に従事している従業員各位の一層の協力と活躍をお願い致します。ヴィナス通信購読者の皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げます。



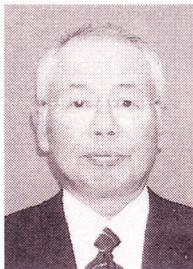
財務委員長 古川敏雄

新年明けましておめでとうございます。

今年には都条例によるディゼルトラックの排気ガス規制で十月以後の首都圏乗り入れが出来なくなる車両が増えます。

その為、入れ替えトラックの共同購入、又、行政回収によるトラック青年部のホームページ開設、事務処理のスピード化によるIT機器の購入など、時代に則した組合運営をしていかなければならないと思えます。

新年度は、組合のより一層の発展を皆様と共に力を合わせ、歩んで行きたいと思えます。



委託事業委員長 土井益二郎

新春のお慶びを申し上げます。昨年十月、十数年ぶりに新聞古

紙が二円上がり、明るい新年を迎えました。

しかし、経済の低迷、失業者の増加、十月には、東京都の排ガス規制により触媒装置の取り付け若しくは車両入替、又、青年部の取得手続、さらに、古紙・アルミ缶等の抜き取り行為が目立ちはじめ、期待六〇%不安四〇%です。

鉄スクラップも若干値上がりしましたが、下級屑は逆有償若しくは無償で、厳しい状態が続いているが、集団回収・委託事業を更に充実させ、難問を解決出来るよう努力します。



集団回収委員長 小畑和夫

明けましておめでとうございます。

地域の各種団体が協力しながら行なっている集団回収もここ数年は微増にはなっているものの回収量は停滞のみです。

原因は、各市行政回収の普及、高齢化、少子化などの原因によるものと思われま

す。今年、もう一度原点に戻って、市民や子供たちへのリサイクルの

啓発、地域交流の機会、また集団回収をおこなう事によって各市から助成金の交付が受けられるなどの長所や利点を、アピールするとともに回収方法を検討(回収日の増加・収集場所の細分化)し、集団回収の活性化をはかります。

集団回収をはじめたい方、また何か問い合わせがありましたら組合までご連絡ください。

集団回収は市民のご協力が不可欠です本年も宜しくお願いいたします。



福利厚生委員長 萩原貞雄

二〇〇三年明けましておめでとうございます。

東多摩再資源化事業協同組合も二〇〇三年で設立十周年を迎え、誠に喜ばしい事と思えます。今年こそと思ひ、価格低迷から抜け出せずここまで来ました。しかし、二〇〇三年は今迄と違い、本当に資源業界にも明るさが見えて来ました。再資協の一員として設立二十周年、三十周年を迎えられる事を願ひ、又皆団結し再資協が発展出来るよう、努力して行きたいと思ひます。皆様の健

やかなる事を願ひます。皆様の健

康をお祈り申し上げます。



広報委員長 吉浦高志

昨年度は、ヴィーナス通信を通じて、組合の活動状況や、リサイクルの現状を市民の方々に理解して頂けたと思います。

本年は、ヴィーナス通信の編集、新しい組合パンフレットの作成、組合ホームページの充実、各市のリサイクルフェアなどのリサイクル行事への積極参加、トイレトペーパー「ブーメラン」の販売などの従来の委員会活動に、組合設立十周年に向けた組合史の作成も加えて、青年部と協力しながら全力で取り組みたいと考えています。また、これからの組合のあり方を勉強するために、様々なリサイクル施設の視察と研修をできるだけ多く行いたいとも考えています。



青年部長 土井健一郎

新年、明けましておめでとうござ

ざいます。

昨年七月に、東多摩再資協に青年部が、設立されました。初代青年部長を拝命いたしました。

昨年四〇歳になりました。青年と言葉が、似合わなくなっているのに青年部長になりました。事務局長に、何歳までが青年なのか？と聞きました所、自分が青年だと思っているまでじゃないのと、言われ納得してしまいました。

設立にあたり七名の部員達と打ち合わせを繰り返し、七月五日に設立総会を、開催し無事承認されました。

その後、組合行事に積極的に参加し、組合家族慰安や、各市のリサイクルフェアなどのイベントにも参画いたしました。

現在、組合の記念行事があり青年部としても、各理事の皆様と協力して積極的に、参加して行きたいと思えます。

今年、ホームページの更新や、各リサイクル施設の見学など、数多くの企画を行いたいと考えています。私以外の部員達は本当の青年です。やわらか頭と、若い力で私をひっぱってくれると信じています。

そんな東多摩再資協青年部に、私はついて行きたいと思えます。

トイレトペーパー「ブーメラン」の仕様が変わりました。 100m巻きから65m巻きに (1m当りの単価は変わりません)

今まで当組合のブランド「ブーメラン」は静岡製紙工業に製造を依頼してきましたが経営面から工場閉鎖を余儀なくされました。組合で富士地区の製紙会社を視察し、従来どおり環境にもお尻にも優しいトイレトペーパーを現に生産している明治製紙㈱に製造を依頼することになりました。

原料は組合の当該地域の市役所・公共施設・事業所などから収集されたミックス雑古紙100%で作られます。製造過程においても塩素系、酸素系、苛性ソーダなど化学薬品を使わない無漂白品です。

- 仕様 1 ロール、シングル65m巻き
1 ケース100個入り
- 価格 1 ケース2600円
10 ケース以上1ケース2470円
(いずれも消費税込み)

配達区域 清瀬市、西東京市、東久留米市、東村山市、小平市、東大和市



循環型社会形成に向けた仕組み作りを急げ！

～第十回多摩とことん討論会が開催される～

十月十九日(土)、東京・多摩市のパルテノン多摩で第十回多摩とことん討論会が、「振り返れば未
来々今、市民のとるべき行動は？
(循環型社会へーそれぞれの責
務)」というテーマで開催された。

(1) 全体会

① 基調講演

最初に、環境省廃棄物・リサイ
クル対策部企画課長の竹内恒夫氏
が、「循環型社会構築にむけた国
としての取り組みについて」とい
うテーマで基調講演をされた。

竹内氏は、循環型社会構築のた
めの国の取り組みについて、国が
定めた「循環型社会形成推進基本
計画」に沿って、制度・仕組み作
りと資源生産性の目標という二つ
の面から説明された。

まず、制度・仕組み作りの面
で、①廃棄物や資源物の処理施設
の届出を簡略化出来るような広域
的なりサイクルの指定制度を作る
こと②廃棄物であるかどうか判別
し難い物に対して、自治体が直接
立ち入り調査できる仕組みをつ
くこと③生産者は、物の生産段階
でごみにならない製品、リサイク
ルし易い製品を造り、達成されな

ければリサイクル処理費用を負担
するという拡大生産者責任制度を
整える事などが必要であると説明
された。

また、資源生産性の目標という
面については、国として天然資源
の使用量を減らして、再生資源等
の利用を促進するために、以下の
四つの取組を進めることを計画し
ていると説明された。その計画と
は、①再生資源や持続的利用が可
能となるような太陽・風力・バイ
オマスなどの資源エネルギーの活
用の促進②環境教育・環境学習な
どの推進や、買い物袋の持参・グ
リーン製品の購入などのライフス
タイルの変換③グリーン購入関連
情報の提供、ISO14001な
どの環境管理システムの導入、廃
棄物の発生抑制や循環利用のため
の製品設計・生産システムの工夫
や素材開発などといった環境産
業・技術の発展④循環型社会を支
えるために、必要な調査や情報入
手、人材の充実、施設の整備など
である。そして、国では二〇二〇
年までに現在の二・五倍の資源生
産性の達成を目標としていると説
明された。

② 事例発表

続いて、循環型社会構築に向け
た二つの活動について報告が行わ
れた。まず、多摩市環境部長長島
征雄氏が、「多摩市の和と環と輪
のまちづくり」というテーマで報
告した。長島氏は、多摩市が、廃
棄物減量の数値目標を定めること、
地球温暖化に関する見解と対策を
まとめる、ISO9001の取
得(市民中心での環境行政に対す
るチェック体制の確立)、学校での
環境教育、環境を考えるプロジェ
クトでの議論、緑と水辺の保全活
動、ごみの適正処理と資源の有効
利用、軟質プラスチックの燃料加
工化の推進、環境保全への取組
みを金額や物量で測定する仕組み
である環境会計の導入などの環境
基本計画を定めたということを報
告した。

次に、東京・多摩リサイクル市
民連邦事務局長江尻京子氏が、
「TAMAとことん討論会」一回
の歩みと東京・多摩リサイクル市
民連邦」というテーマで報告した。
江尻氏は、TAMAとことん討論
会が一九九二年七月に読売ランド
で行なわれた多摩リサイクルとこ
とん討論会をきっかけとして開催
されるようになったと説明した。
また、東京・多摩リサイクル市民

連邦の活動としては、地域のコミ
ュニティーを大切にしてきたこと、
NPO法人格を取得するための活
動を行なってきたこと、今年四月
に出来た多摩リサイクルセンタ
ーの運営・管理を行っていること
などを報告した。(柿崎正則)

(2) 分科会

全体会終了後、七つの部門に分
かれて分科会が行なわれた。

① 第三分科会

第三分科会では、まず、府中市
環境安全部次長 大野明氏、NPO
ごみ環境ビジョン21一服部美佐子
氏、東村山市環境部施設課長 北
田常男氏、多摩川衛生組合事務局
長門間氏の四氏が、それぞれの団
体、自治体での取り組みなどを説
明した。

その後、参加者の質問に基づい
て活発なディスカッションがなさ
れた。不燃ごみの約七〇%を占め
ると言われる、廃プラスチック
やペットボトルの処理方法につ
いて、燃やす・燃やさないの話から
拡大生産者責任による発生抑制ま
で、様々な意見が飛び交った。し
かし、結論には至ることはなかつ
た。

今回が初めての参加であったが、
市民から我々関連事業者まで多種
多様な方々の意見を吸収すること

が出来、基調講演から数えるところ
らい六時間半も、私的には有意義
な一日であった。(紺野琢生)

②第六分科会

第六分科会では、「資源リサイ
クルここが問題 Part 5」容器
R法の問題点を徹底検証」という
テーマで行なわれた。コーディネ
ーターは、山本耕平氏(株ダイナ
ックス都市環境研究所所長)で、
パネラーは、笠井仁志氏(東京壘
容器協同組合常務理事)、山本義美
氏(びん再利用ネットワーク事務
局)、竹内恒夫氏(環境省廃棄物・
リサイクル対策部企画課長)、貞森
恵佑氏(経済産業省産業技術環境
局リサイクル推進課長)など。

討論では、各パネラーからガラ
スびんリサイクルの現状が報告さ
れ、その後ガラスびんリサイクル
の問題点の解決について議論した。
報告によれば、現在のガラスびん
は、ペットボトルなど他容器に押
されてリユース(再利用)がかな
り減っているという。なぜならば、
ガラスびんの回収が、それまでの
酒屋などの業者の回収から行政の
資源回収などの大量リサイクルル
ートに回ったことで、リユース用
のガラスびんの品質が悪くなって
いることが最大の要因とのことだ
ある。その分、ペットボトルがかな

り増えてしまい、地方自治体の回
収費用負担も大きくなる一方なの
で、これでは廃棄物の発生抑制に
はつながらないということも指摘
された。

そこで、ガラスびんのリユース
を進めて廃棄物の発生を減らすた
めには、リユース率を高めるため
のガラスびんの規格の統一、ガラ

最新鋭の清掃工場と市民が運営する
リサイクルセンターが完成!

多摩リ団連の呼びかけにより、
十二月五日、多摩清掃工場と併設
されるリサイクルセンターを見学
してきた。

場所は、多摩市唐木田という所
でニュータウンから少し離れた場
所に建設されていました。敷地面
積三五、六〇〇㎡の中に管理棟、
焼却施設、不燃、粗大ごみ処理施
設、リサイクルセンターが建設さ
れており、平成十年三月から焼却
施設が運転を始め、平成十四年三
月に管理棟、不燃、粗大ごみ処理
施設、リサイクルセンターが完成
され運転を始めた。

施設内に案内されさっそく見学
を始めた。見学コースを歩きなが
らこれがごみ処理施設なのかと驚
くほど清潔な施設であった。
焼却炉のごみ焼却能力は、日量

スびんの生産者が、リユースし易
いびんを製造し、出来なければリ
ユース費用を負担するという拡大
生産者責任の徹底、商品を売る際
に価格に上乗せをし、消費者が空
きびんを返却する時にその上乗せ
額を払い戻すというデポジット制
度の設定などが必要であるとの結
論に達した。(柿崎正則)

最新鋭の清掃工場と市民が運営する
リサイクルセンターが完成!

四〇〇t(二〇〇t×二炉)で現
在焼却炉は、二つのうち一つが稼
動中とのことでした。

この処理場には、多摩市、八王
子市のごみが、搬入されていて二
つ目の焼却炉が運転を始めるのは、
いずれ搬入される町田市のごみも
一部処理する様になってからと言
っていた。

最新の焼却炉は、高温燃焼によ
り有害物質やダイオキシンなどの、
発生を抑制し公害防止対策を最優
先した物を導入しているそうだ。
二六〇億円近い建設費用にも納得
した。

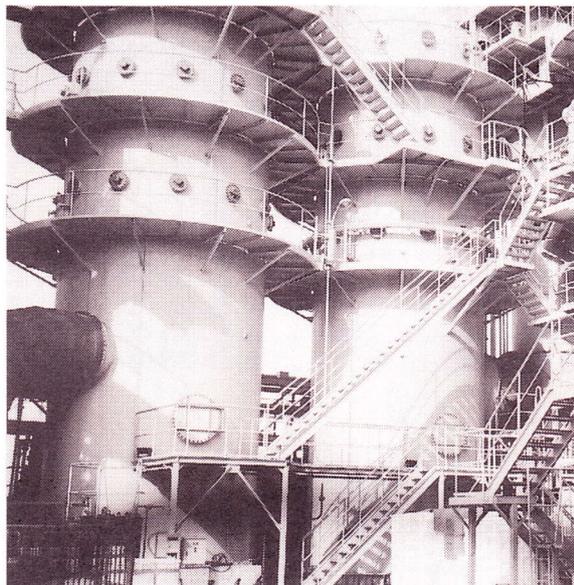
次に場内に併設されているリサ
イクルセンターを見学した。この
施設は、NPOの市民団体が管理、
運営をまかされているそうだ。セ
ンター責任者の江尻さんの案内で、

見学を始めた。センター一階では、
粗大ごみから出たタンスなどの、
家具類、自転車などを修理する作
業所、修理して甦った物を販売す
る販売コーナーがあり、商品とな
ったものがとろ狭しと並んでい
た。二階は、様々なリサイクル品
がきれいに展示されていていつも
市民でにぎわっているそうだ。

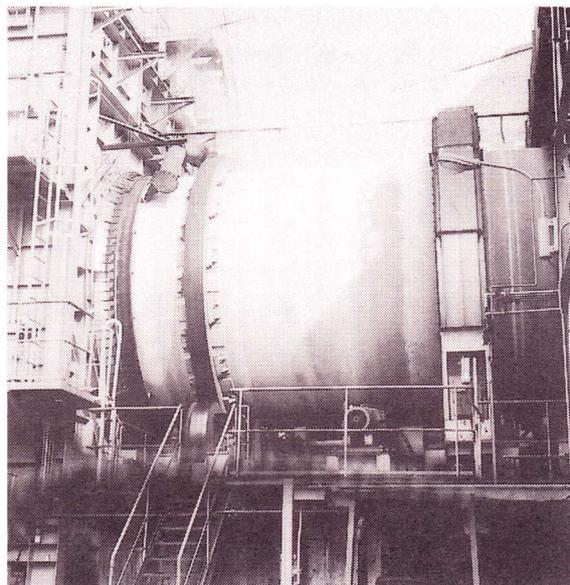
こうしたリサイクル施設は、市
が運営するのが通常だが、多摩清
掃工場及び多摩リサイクルセンタ
ーは、市民団体が、管理、運営し
ているめずらしい形態として、各
市町村から注目されている。
(土井健一郎)



市民が運営するリサイクルセンター



スクラバー（排ガス洗浄塔）



ロータリーキルン（1次燃焼炉）

- ①熱交換により、温度が下がる事になり、ダイオキシンの再合成の可能性が否定出来ない事
- ②回収出来るエネルギーは数%と少ない事
- ③熱交換機に付着するダスト類のメンテナンスが頻繁に必要になり（70時間程度ごと）、焼却再開に伴う予熱のエネルギーが必要な事

以上の事を考えると環境にとってはプラスになっていないとの結論に達したそうである。営業的には、現在のリサイクルブームの中において厳しいとの事だが、トータルに地球環境について考えると、形だけのリサイクルは無意味であるとの結論に達し、それよりも医療系を始め複雑な廃棄物処理を確実に行う事を優先するという事である。この考え方は十分に評価に値する。

一般的にゼロエミッションもブームだが、メーカー系の環境の担当者の話を聞いてみると、あくまでも営業ポーズであり、セールストークとしてプラスにならなければ止めるとの話が多い。それは、呉羽環境の理念に通じる所ではないだろうか。

京都大学の教授の書いた本で、「リサイクルしてはいけない」という著書があり、この中では、焼却灰を灰溶融によってレンガや路盤材に再利用する事が行われているが、灰の中には重金属が含まれており、将来、鉱山に頼るのではなく、灰から金属を取り出す事が可能になるのではないかと、その為に灰だけで管理しておく必要があるとの提言を行っている。

リサイクルは確かに必要であるが、長期的視野に立ち、現在、出来る手当をしておく事も必要ではないだろうか。

また、ISO14001の取得も3年前に自力で取得しており、近隣に対し、環境目的、目標も公開し、実行している。地域コミュニケーションなど、周辺住民対策にもシステムを利用しており、戦略的に経営ツールとしてISOを利用している好例と言えよう。これによって周辺住民とのトラブルといった問題がヘッジされており、経営のリスク回避効果は大きい。同時に取引先に対し、安心感も含めアピール度は高い。

以上

呉羽環境(株)視察報告

組合賛助会員

長沼商事(株) 常務取締役 長沼 浩

見学日時 平成14年11月30日(土)
見学会名 東多摩再資源化事業協同組合・環境施設調査会
参加人数 13人

概要

呉羽化学株の関連企業である、呉羽環境株の焼却施設の見学を行うと共に、環境、リサイクルのあり方等について意見交換を行う。

内容報告

呉羽環境は、小名浜港より15km程度内陸に位置し、呉羽化学、呉羽運輸等の呉羽グループ企業と共に、工業団地の一角にあり、近隣には住宅も存在し、工場内はもとより、周辺環境への配慮も求められる立地である。

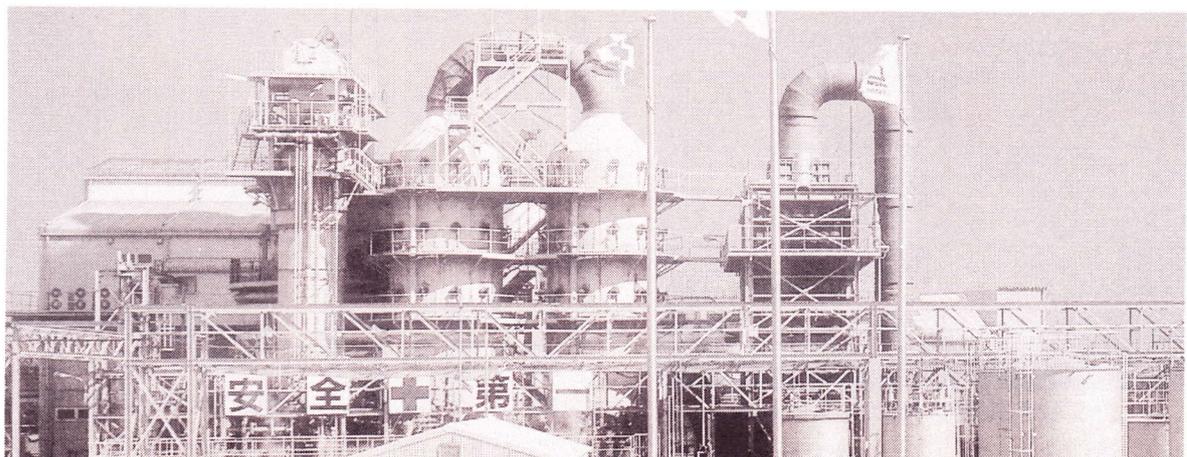
設備内容は、2基の大型焼却炉を中心に、中和設備等を備えている。焼却炉は、ロータリーキルン式であり、流動床式に比べ、多様な廃棄物に対応しやすい設備内容である。

取り扱い品目は、医療系廃棄物といった特別管理廃棄物から、汚泥まで幅広く対応している。また、化学メーカーの関連会社らしく、一般的な焼却の概念とは違った意識を持って、スキームを組んでいる所も特徴的である。

実際の焼却工程(フロー)を概観すると、最初に搬入された様々な廃棄物を混合し、3500kcal程度に配合する。そして、クレーンによってロータリーキルンに投入する。キルン内の温度は1000℃程度であり、ガス状物質でも対流時間は4秒程度と、ダイオキシン規制法の対流時間を十分に上回っている。その後更にジェットファーン(850℃程度)で4秒程度対流させ、完全に分解させるとともに、サイクロンのようにガスを回転させる事により、気体中の粉塵等も分離させている。次に急冷塔にて、850℃から80℃まで急速に冷却することにより、ダイオキシンの再合成も防止している。その後、2段のスクラパー(アルカリ注入液による洗浄)、2段のミストコットレル(湿式の電気集塵)において浄化の上、排出される。特徴的なのは、このスキーム全体が、化学反応として捉えている事にある。通常我々が、焼却として捉えている処理を当スキームでは高温熱分解として捉えている事からもそのことがうかがえる。

また、このスキームの中には、リサイクルのスキームが入っていない。熱回収をするならば、急冷塔の直前で行う事になるのだが、それはあえて行っていない。その理由は以下の通りである。

呉羽環境(株)



新春市況雑感

「足りるを知る」こと

紙パ資源(株) 長沢常憲

二〇〇二年は、春から夏にかけて国内製紙メーカーが古紙買入価格を一方的に値下げし、古紙回収業及びこの流通に携わる業界に大きな痛手となり、従来の回収組織がつぶれかけた年となった。この値下げは古紙業界と行政に負担を強いるもので、「メーカーの一人勝ち」状態になった。

この古紙回収の危機を何とか乗り切れたのは二〇〇一年の後半から東南アジアを中心に古紙輸出が本格化したことである。

国内メーカーの買入れ価格を上回る輸出価格は、国内取引でスレスレの採算を強いられた古紙供給サイドに輸出ブームをもたらした。

二〇〇二年には年間一九〇万トンに達する輸出货量が見込まれ、古紙使用量の一〇%が輸出されることとなり、夏場以降国内古紙の不足が顕著化した。

そのため国内メーカーは輸出価格を追いかける形で買入価格を修正し、原料の調達に動き出したのが秋口以降でそれが現在までの状況となっている。

二〇〇三年の初頭にあたり、製

紙業界、古紙業界に望みたいのは、「足りるを知る」ことであり、原料供給サイドと消費サイドが協調することがお互いの利益になることを強く認識し、どちらかが一方的なメリットを得るといふやり方を変える「協調の年」となることを願っている。

組合のリサイクル

施設を見学して

青年部 白戸亜矢子

去る一月一六日、小平市のリサイクルセンター、中島町にある小平市清掃事務所、そして東久留米にある柳泉園リサイクルセンターを見学した。

まず最初に、缶の選別処理方法を見学した。缶は、コンベアで二階へ運ばれ、選別ラインにおいてビンや不純物が取り除かれる。最終的に残ったアルミ缶とスチール缶は、大きな磁石に吸い付けられて選別され、別々にプレスされていた。

次に、今回の施設見学で、私が一番印象に残ったのは食品トレイの選別処理だった。まずは、中島町の小平市清掃事務所での見学。



中島町の小平清掃事務所にて

ここでは食品トレイは、袋回収の為、色つきと白色が混ざって回収される。これを色つきと白色に分別し、高温で溶かし長方形に固められる。驚いた事にこれから繊維に生まれ変わるそうだ。

一方、柳泉園リサイクルセンターでは回収する段階で、色つきと不純物は取り除かれるため、置き場に色つきのトレイはなかった。白トレイは、長方形にかためられ、繊維ではなく、中国に輸出されて灰皿などになるそうだ。ここでもまた驚いた。

トレイの分別は、最近よくスーパーの店頭で見かけるようになってきたが、まさかまったく別のもの生まれ変わるとは知らなかった。私の住む東村山市ではごみ有料化が一〇月から実施され、出来るだけ

けごみを減らそうとスーパーで買っ物をしたあと袋に詰める時に、トレイから食品を取り出し、そのまま設置されているトレイのボックスに入れるようになった。こういう店頭ボックスがあるのは主婦にとつて有難いことだ。しかし家に帰ると細かくわかりづらい分別は面倒になってしまふ。私以外にも、分別方法がよくわからない主婦の方たちもたくさん居ると思う。ごみ減量、リサイクルの意識を皆に高めてもらうためにも、地域活動を通して正しい分別方法やその後どうなっていくのかなど、知ってもらいたいと思う。組合の青年部員として、主婦としてとても勉強になった。



プレス処理された食品トレイ

私の履歴書

株式会社水野商会

取締役 水野格治

私は、大正十三年三月三十一日、長野・木曾福島にて四人兄弟の次男として生まれました。

父が、私が六歳の時病死し、母が女手ひとつで生計を立てる事になりました。

母は行商を中心に何でも仕事を引き受け頑張りましたが、やはり生活は苦しく、幼い弟が二人いたので兄と私は小学校三年生で奉公に出ることになりました。

生木で炊飯をいっつけられ火がつかず、いじめられ泣いた事を切なく今では懐かしく思い出します。戦前・戦後の貧しい世情の中、縁あって勤めたとびしま組(発電所の為のトンネル工事をする会社)の在勤中、昭和十九年八月、日本の敗戦を目前に海軍に徴兵され、赤紙をもらった時は、死を覚悟の上での出陣をしました。

昭和二十年八月、日本が敗戦。私は、運良く長野に復員することができ、昭和二十三年結婚。

結婚を期に、弟が埼玉・所沢の米軍基地に働いていたので、その

紹介で思いきって長野を出る決意をし、家族を連れて引越。

ところが、弟を訪ねてみると話はまとまっておらず、住む所も仕事もないままおりたつたのが、ここ北多摩郡東村山町南秋津でありました。

どうやってしのいだのか、本来なら途方に暮れるところですが、幼い頃から仕事をし世間の波にもまれたのが幸いし「なんとかなる」の心情から住まいを得、米軍基地で働く事もでき、子供も三人授かり安定した暮らしができると思っホツとしました。

しかし、人生とはままたらないもので、昭和三十五年結核を患い、米軍基地を退職。幼い子供達を抱え、やけっぱちになる気持ちと戦いながら、病院生活を送らなければならぬこととなりました。

一年後、病氣も治りましたが、定職も決まらず今というアルバイトのような事をして、食い繋いでいましたが、知人の一言で、私の新しい人生を切り開くことになりました。「おじさん、遊んでいるよいいよ。」と廃品回収をしてみないかと薦められました。

それは昭和三十六年、私が三十八才の時でした。当時は、ずぶの素人で、ダンボール・新聞と誰で

もわかる物からはじめました。ある時、清瀬の気象衛星センターで子供が銅線を集めているところを見つけ、それを当時五千円位だったと思いますが、仕入れ、私は儲かったと思ひ、喜んで清瀬の小畑さん(小畑商店)に売りにいくと、中身は銅ではなく鉄線だったので、それからは、毎日毎日が勉強でした。一日も休まず働いても、徒労に終わることが多かったのですが、幸いな事に免許を持っていたので、三輪自動車を持ち、がんばり、その結果水野商店を開業。

開業当時は、保健所の許可がないと仕事ができないことも知らず、無我夢中で働いたことを思い出します。四十三歳頃、東資協田無支部に入会。組合員になることができました。昭和四十六年には、現在の秋津町に土地を借りることにしました。いろいろなことがありましたが、私も七十九歳になり、どんどん変化して行く世情の中、振り落とされぬように最大の努力を惜しまず、これからも組合の皆様にご指導いただき頑張っていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



組合ホームページを 全面リニューアル中!

この度当組合では、現在御利用頂いているホームページを、全面リニューアルすることにしました。リサイクルコラム、毎月更新される地域のリサイクル情報、集団回収のご案内のページ、組合員の詳しい紹介のページなどを新設し、地域の皆様により旬の情報を提供します。

リニューアルオープンは3月1日を予定しておりますので、是非ご活用ください。なお、アドレスの変更はございません。

ホームページアドレス: <http://www.h-recycle.or.jp/>

行事・行動

【九月】

五日：東村山市事業系ごみ有料

化説明会

八日：小平市リサイクル祭

一日：定例理事会

一七日：小平RC安全会議

二四日：西東京市廃棄物減量審

二五日：東大和市廃棄物減量審

二六日：ペットボトル工場視察

：古紙センター業務委員会

二七日：日資連理事会

二九日：関資連総会

三〇日：小平市廃棄物減量審

【十月】

二日：小平集団回収業者説明会

一〇日：定例理事会

一三日：清瀬市民祭

一七日：中小企業団体中央会全国

大会（埼玉アリーナ）

一九日：札幌市くるくるネットと

古紙ネットの合同シンポ

ジウム

：多摩とことん討論会

二〇日：

二二日：小平RC安全会議

：青年部会議

二四日：古紙センターセミナー

二六日：組合従業員慰安旅行

二七日：東村山リサイクル祭

二八日：総務委員会

：小平市廃棄物減量審

三〇日：製紙工場見学（静岡）

三一日：プラスチック工場視察

【十一月】

四日：総務委員会

一日：定例理事会

：東大和市廃棄物減量審

：小平市廃棄物減量審

：リサイクル議員懇談会

一八日：広報委員会

一九日：古紙循環プロジェクト

二〇日：小平RC安全会議

：青年部会議

二二日：車両購入説明会

：日資連理事会

二五日：商工会議所決起大会

二七日：新聞リサイクル会議

二八日：都議会民主党大会

：古紙センター業務委員会

二九日：組合員研修会（福島）

三〇日：

【十二月】

二日：東大和市廃棄物減量審

三日：財務委員会

五日：多摩R団連施設見学会

（多摩市・八王子市）

九日：都民施設見学・説明会

（日興紙業商事株）

一日：定例理事会

：都民施設見学・説明会

（日興紙業商事株）

一三日：組合従業員忘年会

一七日：柳泉園RC安全会議

一六日：小平市廃棄物減量審

一八日：車両購入説明会

二〇日：広報委員会

二三日：柳泉園RC安全会議

二五日：青年部会議

二九日：仕事納め

【二〇〇三年一月】

六日：仕事始め

九日：古紙センター新年会

一〇日：東京都中小企業団体中央

会新年会

：定例理事会

一三日：広報委員会

一六日：東資協青年部新年会

一七日：小平RC安全会議

一八日：東資協新年会

二五日：日資連理事会

三〇日：古紙センター業務委員会

三一日：組合員研修旅行

（鹿児島リサイクルC）

リサイクル川柳

◎ お正月 どこが不況だ

ごみの山

◎ 神頼み

回収業者は紙頼み

◎ ごみ有料

古紙分別は 優良に

（改修業者）

編集後記

小平市リサイクル推進課長藤原 哲重様直言拝聴にご寄稿下さりありがとうございます。そう言えば、先日、オーストラ

リアに留学している学生の話をお聞きしました。留学先の大学に行った初日のこと、日本から持っていたポケットティッシュで鼻をかんだところ地元の学生からブーイングが起こったと言う。「あなたはなぜハンカチを使わないのか」と問われたそうです。

街を歩けば、嫌でも二・三個のポケットティッシュを押し付けられる東京では信じられないこと。

日本の常識は世界の非常識となることが意外に多いようです。

口先だけの、ポーズだけの発生抑制やゼロエミッションで、循環型社会など構築できそうもないのではないのでしょうか。

心にゆとりと優しさをもって、自らのライフスタイルをそっと変えて、何かを節約してみるほうがより効果があるのではと感じました。

まだまだ寒い日が続きます。読者の皆様くれぐれも体に気を付けてカゼをひかないようにして下さい。